

大地震・津波への備え

深刻な被害が想定されている南海トラフの地震ですが、日ごろから備えを行うことで確実に被害を減らすことができます。いざという時に適切な行動をとれるように備えを見直しましょう。

津波から逃げ切る！

県では、津波への対策として海岸の堤防整備や避難路整備に取り組み、津波から安全に避難することが困難な「津波避難困難地域」の解消に努めてきました。その結果、2026年度末には、発生頻度が高いとされる東海・東南海・南海3連動地震に係る津波避難困難地域が県内すべてで解消される見込みです。津波の到達が早いとされる地域の方も避難を諦めず、「揺れたら逃げる」を徹底しましょう。また、災害という非常時においてスムーズに避難するためには日常における備えが重要です。地域の避難訓練に積極的に参加するなど、事前に避難場所や避難経路を確認しておきましょう。

津波避難3原則

- 1 想定にとられない
- 2 最善を尽くせ
- 3 率先避難者になれ

備蓄品の確認

半島地域で山間部が多い和歌山県で大地震が発生した場合、避難生活の長期化やライフラインの復旧に時間を要することも想定されています。能登半島地震では水や食料だけでなく、トイレなどの衛生環境も大きな課題となりました。こうした大規模な災害に備え、1週間分程度の水や食料、簡易トイレなどを備蓄しましょう。また、簡易トイレについては、使用方法を事前に確認しておきましょう。



備蓄品チェックリスト(例)

1週間分を目安に！

避難バッグ

避難するときにまず持ち出すべきものを、ひとまとめにし、すぐに持ち出せるよう置き場所を決めましょう。

- ☐ 非常食
- ☐ 飲料水
- ☐ 携帯ラジオ
- ☐ モバイルバッテリー
- ☐ 懐中電灯
- ☐ ポリ袋
- ☐ 安全器具
[ヘルメット・ライフジャケットなど]
- ☐ 救急医療品
- ☐ 常備薬
- ☐ 衣類、タオル
- ☐ 生理用品など

備蓄品

救援活動が受けられるまでの間に必要な水や食料などを、家屋が被災しても取り出せる場所に保管しましょう。

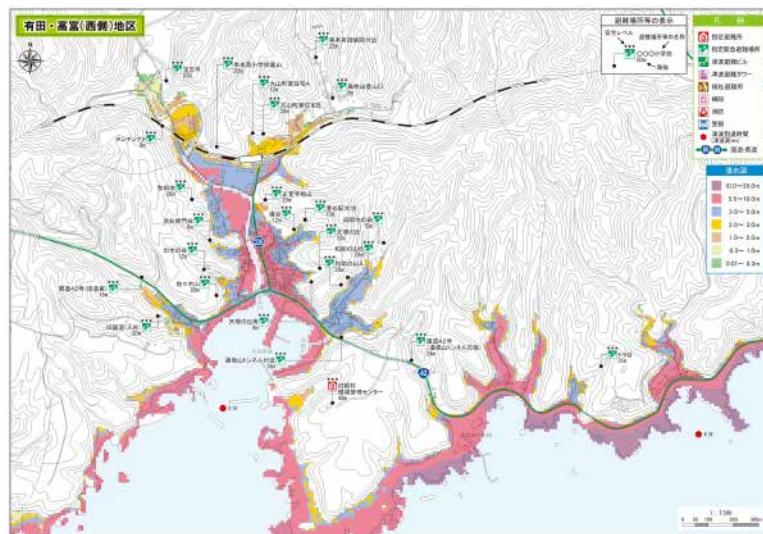
- ☐ 備蓄食料
- ☐ 備蓄水
- ☐ 毛布、寝袋
- ☐ 電池
- ☐ はさみ、ナイフ、缶切り
- ☐ 卓上コンロ
- ☐ 簡易トイレ
- ☐ キッチン用ラップ
- ☐ ブルーシートなど

家族の人数や日数に応じた備蓄量の計算はこちら



ハザードマップを確認

ハザードマップでは津波の浸水想定区域や避難場所の位置などが分りやすく地図に示されています。ハザードマップは市町村の窓口等で配布されているほか、WEBでも公開されています。地域のハザードマップで、安全な避難場所や家の周りに危険な箇所がないかを確認しましょう。また、避難場所ごとに安全レベルも記載されていますので、状況に応じた避難ができるようにしておきましょう。



ハザードマップ(例:串本町)



地域のハザードマップを確認！



地震・津波浸水想定を確認！

住宅耐震化

能登半島地震では古い住宅ほど倒壊・崩壊など甚大な被害を受けました。しかし、古くても耐震改修が実施されていた住宅は被害が大幅に軽減されたと報告されています。

これを踏まえ、県では今年度から、補助金額の引上げやこれまで補助対象ではなかった1階部分のみの部分的な補強についても補助対象とするなど制度拡充を行っています。地震から命を守るため住宅耐震化に取り組みましょう。

各市町村の住宅耐震化担当課または県建築住宅課

☎073-441-3214
FAX 073-428-2038

事業種別		補助額
耐震診断	木造住宅	無料で実施
	非木造住宅	最大 8万9千円
耐震改修		最大 131万6千円
除却工事		最大 50万円

※補助制度の詳細は市町村により異なります。

ステップ1 耐震診断

木造住宅診断 無料

必要に応じて専門家への無料相談が可能

ステップ2 対策

補強設計・改修工事に最大131万6千円を補助

昨年度より15万円増額



制度の流れ



由良町小引区自主防災会
会長 内芝 善明さん

災害時に身を守るためには当事者意識が重要だと考えており、「自分たちの命は自分たちで守る」ふるさととは自分たちで守る」という思いで日ごろから繰り返し防災訓練を行っています。費用や人手など課題はありますが、今後避難訓練を振り返ることで改善点を見つけたら、備蓄の強化などに向けて取り組んでいきたいと思っています。



高台に整備された防災倉庫